

## 令和4年度北海道地方競馬運営委員会議事録

〔 日時 令和5年(2023年)3月15日(水) 15:30~17:45  
場所 TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 カンファレンスルーム5J 〕

### 1 開会

(競馬事業室 木村参事)

### 2 あいさつ

(宮田農政部長)

- ・ 北海道地方競馬運営委員会の開催にあたり一言御挨拶。
- ・ 本日は、運営委員の改選後、初めての開催となるが、皆様方には年度末の御多用の中、御出席いただき御礼。また、新たに委員になっていただいた糸井さん、中村さん、西山さん、山下さんには、ホッカイドウ競馬と馬産地・日高、胆振の発展に向けて新たな視点と発想での御意見をよろしくお願ひ。
- ・ はじめにホッカイドウ競馬の運営についてだが、ホッカイドウ競馬は大きく2つの業務を行っている。1つは道営競馬の開催、もう1つが他主催者競馬の馬券の発売。1つ目の道営競馬の開催については、日高の門別競馬場で今年は4月19日から11月9日までの火・水・木曜日を中心とした82日間開催。2つ目の他主催者競馬の発売については、全道16か所の場外発売所で365日間営業している。この両輪で収支が成り立っており、道営競馬の開催はもとより、JRAや大井、川崎などの全国の地方競馬など他主催者競馬の馬券販売手数料収入も大きいのが実態。本日も全道の場外発売所で馬券の発売を行っている。
- ・ このうち道営競馬についてだが、昨年は4月から11月の85日間の開催で、発売額は527億7千万円と過去最高を記録したところ。
- ・ これもひとえに、きゅう舎をはじめとする関係者の御努力と馬産地の皆様の御支援、そしてホッカイドウ競馬を応援していただいたファンの皆様のおかげと考えており、この場をお借りして御礼。
- ・ 本日の委員会では、令和4年度の開催結果と5年度の取組概要について御報告するとともに、現在「第3期北海道競馬推進プラン」に基づいて競馬を運営しているが、来年度に5年間の計画期間の中間年となる3年目を迎えることから、これまでの進捗状況を御説明し、今後の取組などについて御意見をいただきたいと考えている。
- ・ また近年の課題としては、例年4月、5月の春先にレースに出る馬の頭数を十分に確保できないことや、門別競馬場の基幹施設が老朽化しており、その更新に多額の費用がかかること。また、この2、3年コロナ禍の巣ごもり需要があったため発売額が伸びており、巣ごもりでネットで馬券を買うことで大きな効果となっていたが、だんだん世の中が変わり皆さん外に出る機会が増えると、巣ごもり需要が減り1日当たり発売額に懸念があることなどがあり、こうした課題についても良い知恵をいただけたらと思う。

- ・ ホッカイドウ競馬は馬産地に立脚した競馬として、地域の雇用や経済を支えるとともに、全国への競走馬の供給といった重要な役割を担っており、道としては、競馬事業が将来にわたって安定的に運営していけるよう取り組んでまいります。
- ・ 最後になるが、委員の皆様方には、忌憚のない御意見や御提言をお願いして開会の挨拶とする。本日はよろしくお願ひ。

### 3 議題

#### (1) 委員の紹介並びに委員長・副委員長の互選について

(事務局 木村参事)

- ・ はじめに、本日の委員の出席状況を御報告。委員 11 名のうち 8 名が出席されており、北海道地方競馬運営委員会設置条例で定める過半数の御出席があり、本委員会は成立していることを報告する。
- ・ 次に資料の確認。次第、出席者名簿、配席図、資料 1、資料 2-1 から 2-4、資料 3-1 から 3-3、資料 4、その他に今シーズンのポスター、日程表、レーシングガイドの原稿を配布したので確認願う。
- ・ これから議事を進行させていただく。委員長・副委員長が選定されるまでこちらで進行。今回、新たに委員になった方もおられるので、名簿順に皆様から一言ずつご挨拶をいただく。

(石川委員)

- ・ 石川めぐみと申します。今は翻訳中心の仕事をしているが、コロナ前 10 年間、中国・中華圏からのインバウンドを専門にした旅行会社をやっていた関係でこちらに出席させていただいている。よろしくお願ひします。

(糸井委員)

- ・ 一般社団法人 umanowa の代表の糸井いくみと申します。ホッカイドウ競馬さんとは、私が新ひだか町の地域おこし協力隊に着任してからずっとお世話になっている。毎年ホッカイドウ競馬に子供たちを連れて行って、楽しい授業を行っており感謝している。皆さんの何かお役に立てたり、一緒に何かできたらと考えている。よろしくお願ひします。

(中村委員)

- ・ 北海道観光振興機構の中村と申します。全道の観光振興を担当しているので、競馬と観光をうまく組み合わせることができたらと思って参加させていただく。よろしくお願ひします。

(西村副委員長)

- ・ 西村和夫です。新ひだか町で牧場と今は農協の仕事をしている。ホッカイドウ競馬は馬主会の会長代行をしている。この会議では、今月 23 日に日馬振、日本地方競馬馬主

振興協会の総会が東京であるが、その中での色々な情報はこの会議の中でお知らせしたい。よろしくお願いします。

(西山委員)

- ・ 北海道新聞の西山と申します。取材は経済関係が長く、日高での勤務経験がないので、ホッカイドウ競馬の事については記事を読んで発売が大変好調だという知識くらいしか就任するまではなかったが、一般の消費者の目線も含めて皆様と違った視点で意見を述べたいと思っている。よろしくお願いします。

(浜近委員)

- ・ 馬レターという雑誌の編集をしているドリームストーリーの浜近です。この委員会には10数年おり一番の古株かと思うが、よろしくお願いします。

(平本委員)

- ・ 北海道大学の平本です。経済学部にも所属しているが専門は経済学ではなく経営学。前任が札幌大学の佐藤郁夫先生という方で、その後で学識枠ということで、同じ経営学の先生ということでここにいるのではないかと思っている。競馬があまりよく分かっていないが、しばらくこの委員会にいますので大分わかってきた。今回新任で御専門の委員の方になるので色々お教えいただければと思っている。よろしくお願いします。

(山下委員)

- ・ 山下と申します。学生時代からホッカイドウ競馬を SNS を通じて情報発信する活動を行っていて、卒業後それが職業になったという人生を歩んできた。今はサンケイスポーツで業務委託という形だが門別競馬場に関する記事を執筆している。今34歳で若輩者ではあるが、皆様の色々な目線での話を伺いながら、色々なお話をできればと思っているので、よろしくお願いします。

(事務局 木村参事)

- ・ かとう委員、串田委員、鳴海委員におかれては本日は都合により欠席されていることを報告。
- ・ 次に、新体制での委員長及び副委員長の選任を行う。「北海道地方競馬運営委員会条例」第4条では、「委員長及び副委員長は、委員が互選した者をもって充てる。」とされていることから、皆さんからの御意見をください。

(浜近委員)

- ・ これまでの経過なども踏まえ、平本委員に委員長、西村副委員長に副委員長をお願いしたい。

(事務局 木村参事)

- ・ その他御意見はあるか。なければ浜近委員のご提案でよろしいか。

(一同)

- ・ 賛成。

(事務局 木村参事)

- ・ それでは、委員長は平本委員、副委員長は西村副委員長にお願いすることとして、この後の進行は平本委員長にお願いする。
- ・ それでは、議事の進行を平本委員長にお渡しするので、よろしくお願ひ。

(平本委員長)

- ・ 只今、委員長に選任された平本です。前期も委員長ということで、そういう経緯で浜近さんから提案いただいたものと思う。皆さんに活発にご意見をいただきながら、少しでもホッカイドウ競馬がより良いものになるよう、進めていきたいので御協力をよろしくお願ひ。
- ・ 議題1について事務局から説明をお願ひ。

## (2) ホッカイドウ競馬の概要について

- 競馬事業室 木村参事より資料1「ホッカイドウ競馬のご紹介」を説明。

(平本委員長)

- ・ ネットの販売が中心になっていて、かなりの額がネットで販売されている一方で、ある程度コストをかけながら場外発売所を維持しなくてはならないということだが、経営学的に考えると、コストがかかってあまり売り上げが上がらない場外は全部やめてしまっても十分なのではないかと思いがち。そこで場外を持っているということは、それなりの意味があるものと考えてるが、具体的な役割、場外があるからこういうメリットがあるということについて、簡単に教えて欲しい。

理由は何か。

(事務局 木村参事)

- ・ 資料1の5Pで説明。今でこそネット中心の時代で発売の内訳がネット中心になっている。一方、ネットは自分ところのホッカイドウ競馬を売るだけとなる。資料1のP5では19.1億円の黒字となっているが、これまではホッカイドウ競馬の開催だけでは黒字が出なかった。これまでは、場外発売所での他主催者発売による業務協力金収入によってようやく収支が整っていた状況だった。今でこそコロナ禍でホッカイドウ競馬の発売が500億円台に乗るようになって、ようやく道営発売単体でも黒字が出るようになった。
- ・ やはり業務協力金、他主催者の発売をして手数料を得ることは、場外発売所がないと出来ないことなので場外発売所の役割は非常に大きい。自場発売と他場発売を車の両輪

でやっていかないとなかなか収益を確保できない。

- ・ 門別競馬場は札幌から遠いところに位置しているので、競馬場になかなか来られない方も場外で買うことができる。また、場外は地域のコミュニティーとなっている部分もあり、仲間と顔を合わせて馬券を買い、色々な話をさせていただくなど社交の場にもなっている。ホッカイドウ競馬への理解を深めていただける場でもあるため、場外はなくすることはできない。

(浜近委員)

- ・ 岩見沢場外をやめる理由は何か。

(事務局 木村参事)

- ・ 岩見沢の街の中にあるハロンズ岩見沢は、1階がばんえい競馬の発売所、2階が道営競馬の発売所となっており、同じ建物で異なる経営者が似たような商品を買っており、食い合いとなっている。また、施設が老朽化しており、施設の所有者である岩見沢市は、今後施設を新たに建てる予定がなく、修繕費が今後嵩んでくるため、発売状況と今後予想される支出を照らし合わせて考えると、ホッカイドウ競馬としては経営を継続していくことが難しいとの判断となった。
- ・ ばんえいは1階で引き続き営業するので、そこでホッカイドウ競馬の発売してもらう連携をすることで、今回岩見沢場外は廃止することとした。

(浜近委員)

- ・ 今後、場外は縮小するのか、それとも拡大するのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 場外発売所は、今後の情勢の変化にもよるが、今のところは現状維持と考えている。

(事務局 赤池室長)

- ・ 老朽化した場外を新しくすることは考えられるが、今の15か所は基本的にそのままの予定。

### (3) 令和4年度ホッカイドウ競馬の開催結果について

- 競馬事業室 福土主幹より資料 2-1「令和4年度ホッカイドウ競馬開催結果」、資料 2-2「令和4年度ホッカイドウ競馬開催結果」、資料 2-3「令和4年度他主催者競馬の受託発売状況について」、資料 2-4「令和4年度ホッカイドウ競馬開催結果 補足説明資料」を説明。

(山下委員)

- ・ 令和4年度のネット投票についての質問。ネット発売のチャンネルにオッズパークもあったかと思うが、令和4年度からオッズパークはダートグレード競走のみの発売とな

った。発売チャンネルを1つ減らした要因・理由は何かあったのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 説明の中で、ネット発売は、現在SPAT4、JRAネット、楽天競馬の3つの事業者で行っているが、昨年まではオッズパークでも全レース発売していた。過去の経緯や他の主催者との連携もあって見直しを行い、オッズパークと協議の上、令和4年度からは全レース発売ではなく、JRA所属馬も参戦し年に4回実施するダートグレード競走のみの発売に絞らせていただいた。オッズパークでの発売はネット発売の中でも約4%と低かったこともあり、経営的な視点で見直した。

(石川委員)

- ・ 入場者数について、全体としては令和4年度は令和元年度の水準に戻ったが、本場だけがまだ伸びない、つまり場外のほうには今までよりもたくさん人が入り、本場だけが振るわない状況だが、本場に来てもらえない原因は何か考察されたのか。

(事務局 木村参事)

- ・ コロナ禍では無観客や限定500名までなど厳しい入場制限を行ってきた。令和4年度も1,300人までの入場制限をかけていた影響があったことや、イベント開催も控えてきたが少しずつ状況を見ながら再開したものの、令和元年度の水準までは集客のイベントができていなかったため、門別競馬場に足を向けてもらえる客数が少なかったものと考ええる。
- ・ また、無料送迎バスを令和4年度はまだ止めていた。令和5年度から再開するので、今シーズンには本場への客足も幾分戻ってくると考えている。こういったことが主な要因と考えている。

(中村委員)

- ・ 今の質問に関連するが、入場者数の詳細データは確認が可能か。どのような人が購入されているとか、どのような人が来ているかは分かるか。

(事務局 木村参事)

- ・ 入場者数は日々カウントしている。人数はカウントしているが、馬券の購入層まではカウントはしていない。

(中村委員)

- ・ 楽天とかJRAネットは異なるプラットフォームで販売されているのか。

(事務局 木村参事)

- ・ ネット発売の場合は、ネット業者の会員になってもらい、年齢も含めてどの人がいく

ら買ったかも全て分かる。そういった意味では、ネットのほうが分析するデータが充実している。競馬場に来て現金で買う人の把握はなかなか難しいのが実態。

(平本委員長)

- ・ ネット発売では、購入者の属性が全てわかるということだが、その情報が主催者側にも無料で提供されるのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 個人ごとの情報は個人情報となるため当然提供はされないが、年齢層などのある程度の傾向については提供される。

#### (4) 第3期北海道競馬推進プランの進捗状況について

- 競馬事業室 福土主幹より資料 3-1「第3期北海道競馬推進プランの進捗状況」、資料 3-3「JBC 2歳優駿の実施結果」、藤原主査より資料 3-2「新Aiba千歳の概要」を説明。

(中村委員)

- ・ ヒトの充実のところ、騎手などの人材と競合するエリアはどういう方々なのか。例えばポートレーサーとか競輪選手とか、騎手の皆さんを増やしていくためには、似たような想いや希望・興味を持っている方へのアプローチが必要と考える。どういう方、職種と競合しているのか。

(事務局 福土主幹)

- ・ 狭い範囲で言えば、JRAの騎手を目指す方と地方競馬の騎手を目指す方に分けられると考える。

(中村委員)

- ・ 体重の軽量な方や小柄な方、ポートレーサーにも同じような制限があると聞いたことがあるが、そういう人たちの中で転職したりすることはあるか。

(事務局 福土主幹)

- ・ 他の種類の競技との競合があるかどうかまでは分析できていないが、体重が軽いという制約があるので、天秤をかけてそちらを選ぶ方がいるかもしれない。

(中村委員)

- ・ 一方で馬が好きであるとか、自然の環境の中で思い切り体を動かしたいといったニーズはあるかもしれない。

(事務局 木村参事)

- ・ 補足だが、騎手を目指している方は、元々馬が好きとか、小さい頃から馬と関わりが深いなど、何かしら馬との関わりがあった中で騎手に憧れるといった流れかと考える。それ以外にも、親が競馬や馬の関係者であることなどが騎手になる動機になるのではないか。
- ・ ホッカイドウ競馬の騎手に来て欲しいが、J R A と他の地方競馬主催者にどうしても行ってしまう。北海道では冬場に競馬がない。地方競馬教養センターに勧誘に行った際に皆さんから聞かれた質問は、「北海道では冬は何をするのですか」の1点だった。その答えとしては、ホッカイドウ競馬の馬産地の話や、全国の競馬場に馬を供給している供給基地であること、そして北海道ではその元となる強い馬を作って自分のところでも競馬をするほか、競馬場にも馬を供給することで成り立っている。競馬の開催のないときには、騎手が調教をつけて強い馬を作っているといった話をさせていただいた。
- ・ 強い馬を騎手が調教つけて 今年2人新たに入るが、勧誘活動の成果もあって、来年また1名ホッカイドウ競馬に入りたいという人もいる。
- ・ なり手の確保としては、小さい頃からの動機付けが重要。それには今日来ていただいている糸井委員のうまきっずの取組や umanowa の取組は非常に重要な役割を果たしていただいていると考える。ホッカイドウ競馬としても、まだ小さな頃から馬に親しんでもらう、競馬に理解を示してもらおうというような取組を、単に馬券を売るだけでなく、将来の人材育成につながるようなことも連携してこれからやっていきたい。

(中村委員)

- ・ いろいろなところの人手不足は非常に大きな課題。サステナブルな形にもっていくためには、なり手の皆さんをどう確保していくか、育てていくかということが、すごく大切になってくるのでよろしくお願ひしたい。

(糸井委員)

- ・ 子供たちと一緒に門別競馬場をくまなく見学させていただき、学ばせていただいている、初めて気づいたこととして、強い馬づくりに騎手が関わっていることはあまり知られていない。私も行ってから初めてわかった。騎手を志す方が質問をされるということは、そのあたり周知が足りないのではないか。そこが魅力でもあるので、そこを押し出すような何か宣伝が必要。私も自分の授業の中でしていきたいと思っており、何か加えていったほうがいいのではと感じた。その部分でどういうことをしていきたいか、今年度の話し合いの中で取り入れていくことがあるのではないか。
- ・ また、うまきっずは新ひだか町の子供たちだけだが、そうではなく、日高管内、道内、道外から、全国の子供たちをもっと受け入れる体制を少しずつ何年かかけてつくっていかないと、本当の意味での人材確保や子供たちに馬を伝えることにつながらないのではないか。うちの会社の今後の目標でもある。それについてどう考えているか。

(事務局 木村参事)



- ・ 騎手が馬づくりに関わっていることの周知について、今シーズンから YouTube を大々的に取り組んでいくこととしており、現在動いている。単にレース映像を流して馬券予想するだけでなく、きゅう舎関係者の馬との関わりや新人ジョッキーへのインタビューなども含めてホッカイドウ競馬では実はこのようなことをやっているということを番組の企画として盛り込んでいくこととしており、企画を練っているところ。
- ・ 教養センターの騎手の卵への勧誘活動も継続していきたい。今回は現役ジョッキー、リーディングトップの落合玄太を連れて行った。子供たちも目を輝かせて、トップジョッキーの指導を受けていたのは効果的だった。実際に自分がやっている冬場の仕事について、生の声で発信してくれた。実際に現場で関わっている方の発言を取り入れながら取り組んでいきたい。
- ・ 子供たちの関わりについては、構想段階ではあるが、競馬場の基幹施設整備の中で、馬との触れあいができるエリアをつくることも地元の自治体と連携しながら取り組んでいきたい。門別競馬場には親子連れも多く来られるので、競馬場に来たら馬券を買うだけでなく、馬と触れ合うことができるエリアをつくっていくことで、担い手確保につながるのではないかと考えている。具体化はしていないが、地元自治体をはじめ関係者と協議して是非とも実現したい。

(西村副委員長)

- ・ 自分たちはそういった環境・地域の中にいるが、ホッカイドウ競馬のジョッキーの一番難しいところは、競馬がない冬場に育成業を行うこと。その時に初期馴致を騎手がやらないといけない。全国の競馬場でそれはやらない。普通は民間の調教所、いわゆるトレーニングセンターから来た馬に騎手が乗っていく。北海道の場合はブレーキングという初期の馴致やらないといけない。これを行うのはホッカイドウ競馬だけだと思う。これが危険でもあるし苦勞する。これが騎手の方向性としてホッカイドウ競馬に来ることに対する足止めになるのではないか。
- ・ 騎手学校について、基本的には中央競馬会の騎手になりたい人が大半で、落ちた人がその次に地方競馬を目指すのが大半。この中に何が必要なのかというと魅力的なこと。マスメディアは女性騎手を盛んに写して、いろいろ放映したりすると、そういう人たちは増えるが、地方には華やかさはない。
- ・ 先ほどの糸井さんの取組の話で言うと、中央競馬の調教師の息子3兄弟がジョッキーになっていたり、馬を育てている環境の中で育った子供たちはそういう方向へ向かう。日高の場合は、ポニー競馬など色々なことを全国展開に行くときに、育成場の子供たちが馬に乗れる環境がそばにあるので、そこから次の段階として騎手になりたいということにつながる。けっこう浦河から行っている子供が騎手になっており、カナダで騎手になっている例もある。
- ・ 牧場の環境としては、地元の糸井さんがやっていることを大切にしないといけない。もう1つは乗馬クラブや馬術クラブがあるがそれが充実しているかということ。浦河では充実しているが、他の地区はあまりない。今度、門別競馬場の中に、馬に乗れたり

触れ合える、あるいは馬術・乗馬クラブ的なものを作るとのことだが、そこから子供たちが育って行って、いつかはホッカイドウ競馬の騎手になる、そういった環境が必要。

(平本委員長)

- ・ 初期馴致をジョッキーの方がやるという話で、逆に危険もあるということだが、調教の経験を積むことができることによって、引退後に調教師になるジョッキーの方にとって有利になるといったことはあるか。

(西村副委員長)

- ・ それはあると思う。普通経験できないことなので、ひとつのテクニックとして持ち合わせるができる。馬に関してより身近になっていく。

(浜近委員)

- ・ ホッカイドウ競馬の騎手は上手。他場と比べて馴致からやっているの、馬を御せる。すごく上手いと思う。そこをもっともっとPRしていくとよい。ホッカイドウ競馬の騎手はおとなしい。話をする騎手が少ないので、そこを何かできるようになればよいと考える。

(平本委員長)

- ・ アピールポイントはまだありそうな感じがする。

(山下委員)

- ・ 初期馴致の話が出ているが、確かに危険が伴うが、2歳馬のレベルの高さは初期馴致から携わっていくことによる馬との濃密な接点から技術を学んでいくことによる蓄積はかなり大きい。浜近委員が言われたようにそういったところをアピールすることは重要。

(西村副委員長)

- ・ 先ほどの説明の中でファーストサイアーの競馬・レースを作る話が出たが、明日3月16日に2歳馬の能力検定がホッカイドウ競馬で始まる。新しい種牡馬がネットには出ており、結構な頭数が出ている。新しい種牡馬のデビュー馬を揃えたレースは間違いなく北海道でしかできない。生産者も全国の皆さんも注目するので、是非ともやっていただきたい。能力検定が終わった後に状況がわかってくると思うので、是非がんばっていただきたい。

(山下委員)

- ・ 新種牡馬限定レースの話だったが、各競馬場でそれぞれ特色あるレースがあって、高知競馬場では近走振るわない馬同士を集めてあえて混戦にした一発逆転ファイナルレ

ースがあったり、金沢では昨年から敬老の日にベテランホースを集めた限定戦を行ったり、再来週には佐賀競馬では珍名馬特選といった、それぞれ競馬場ごとにここでしか見られない特色のある競馬を行っている。

- ・ 北海道の強みは馬産地ならではの、馬産地・生産者に近いこと。新種牡馬限定の2歳戦は、ファンの間でも、今年来る種牡馬はどれなのか、どの馬が成績を挙げるのか非常に注目される場所。新種牡馬戦のピックアップはホッカイドウ競馬ならではの取組として個人的には評価する。

(浜近委員)

- ・ YouTubeについて、これは質問ではなくお願いだが、二番煎じ、三番煎じ、四番煎じとならないように。一番最後なので。他で客がついているので、同じことをやっても絶対に見てもらえない。よほど特色あることをしないと見てもらえない。内容をよく考えてあまりチャラチャラした内容ばかりではなくてきちんと発信できるような番組作りをして欲しい。
- ・ あとは移籍するのは仕方として、スピーディーキックがフェブラリーステークスに出る時には、この馬はホッカイドウ競馬で育った馬であることをきちんとPRしないと駄目。JRAのほうがみんな見ている。これは南関東の馬と思われるのもったいなさ過ぎる。そこを何か上手くできるようにして欲しい。

(平本委員長)

- ・ 重要なご指摘。やはり適切な情報発信ということ、それがちゃんと届くことは重要。特にYouTubeなどこれから後発で立ち上げるといっているのであるならば、他場のものと一緒にしてもしょうがないという御指摘だと思う。是非とも事務局に御検討いただき、いいものができるといいと思う。

(山下委員)

- ・ 昨年度の開催結果に関わってくる話で、出走馬確保にも関わる話だが、去年は春先、特に4月、5月あたりの出走馬確保に苦労されていた。売上成績を見ても前年比がその月だけ見ると70%台であった。出走馬を確保しきれなかった要因として、競馬事業室の皆さんはどのように解釈されているのか伺いたい。

(事務局 木村参事)

- ・ やはり一番大きいのは他主催者と比べて輸送費が高いこと。ホッカイドウ競馬は11月に終わって他場に転きゅうしてまた翌年の4月の開幕に戻してもらおうという取組を調教師さんが行ってくれているが、輸送費の高騰もあって北海道まで帰してもらうにはお金がかかる。
- ・ また、賞金については、いたちごっこになるが、北海道が賞金を上げると他主催者もそれを見て上げてくる。どうしても賞金の高いところに馬が行ってしまう。良い例が南

関東に集中してしまう。そういった要因が複合的に混ざって、フェリーに乗せて北海道まで運ぶよりは岩手で使うかといった判断になって、去年は馬集めに苦労した。調教師からもそういった話を聞いている。それに対して今シーズンは、手当関係をこれまでは少しずつ上げていたが、思い切ってインパクトがあるように上げた。

(山下委員)

- ・ 先ほどの YouTube 配信についてもそうだが、賞金の引き上げ幅も他主催者と比べて後手後手になっている。他主催者の動向は掴んでいるのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 他主催者の賞金や手当の情報は当然収集しているが、北海道は自治体直営の競馬なので、予算が見えるのが2月、3月になり、馬集めのために馬主に対して賞金・手当を公表するが、それを見て各主催者は、一部事務組合であるため予算の自由度が高く、北海道が上げたのならもう少し上げようかと追随されてしまうため、なかなか他の主催者より上をいくような水準にはならない。

#### (5) 令和5年度ホッカイドウ競馬の取組概要について

- 競馬事業室 福土主幹より資料4「令和5年度ホッカイドウ競馬の取組概要」を説明。

(石川委員)

- ・ 新たなタレント起用について、非常に盛り上げてくれそうで楽しみ。タレントを起用してやっていくことについては、そうそういつも来てもらうことにもならないし、お金がかかるので、長期的にみてホッカイドウ競馬自身がそういう存在を育てていくことを考えておいたほうが良いのではないか。人そのものを立てるということに限らず、例えば、今持っている Twitter アカウントをもっとキャラクター立てする、人を感じさせるものにする。
- ・ 例えば Twitter でもの凄い人気を持っている家電のシャープの公式アカウント「SHARP シャープ株式会社」は80何万人もフォロワーがいるが、そのアカウントは自分の製品ばかりツイートしているかというところではなく、シャープを買いましたという人を見つけたらありがとうございますと試してみたり、自分の会社のことでなくても、見ている人に役立つことだったら教えてあげたりとすごくファンが増えている。見ている人はシャープという会社ではなく、「シャープさん」として見ている。例えば今のアカウントに人情味を持たせるとか、今日のメジロゴゼンとかいって、毎日メジロゴゼンを見せても良いと思う。毎日見ることによって愛情が湧く。そういった方法もあるし、何か自分たちでアピールできる存在を育てていくことを考えるとよいのでは。
- ・ あと、競馬を知らない立場から言わせていただくと、まだ出す情報がやはり競馬を知っている人向け。もう少し知らない人に向けた情報が欲しい。例えば、能検が始まるのは熱いトピックだが、能検って何だろう、例えば何百メートル走ってそのタイムをとっ

て、過去のあの名馬だったら、能検で何秒だったのでこれだったら将来的に期待が持てるとか。

- ・ 2歳馬の屋内調教用販路における調教映像にすごく興味があるが、ただ走っているところを見せているだけではわからない人には全くその意味がわからないので、走らせることによってどういう能力を養うとか、少し知っていたら鼻高くできるような情報も欲しいと思う。

(平本委員長)

- ・ 先ほどのYouTubeの話もそうだが、インターネットを通じての配信は上手にやると効果的だが、月並みにやるとほとんど誰も反応してくれないというところがあると思うので、競馬事業室にもお若い職員の方がたくさんいると思うので、お若い方の知恵や、場合によっては外部の力も活用しながらそういったことができると良い。

(糸井委員)

- ・ 今、手当を上げたり番組を充実させるという話があったが、馬産地、生産牧場のそばにある競馬場なので、生産牧場の方も現地に応援しに行きやすい状況。生産牧場の方にはなかなかあまり還元されないことが多いと感じる。気のせいかもしれないが、色々な牧場の方の話の話を聞くとそう感じる。
- ・ 例えば、生産牧場の方がより競馬を楽しみやすくするような何かを、見る場所などを含めてできないか。生産牧場の方が応援しに行くことで、生産牧場の方も発信している方が多いので、それをまたファンの方が知ってつながっていく可能性があるのではと思っている。生産牧場に対して何かこういうことをしようかということは考えているか。

(事務局 木村参事)

- ・ 見に来られる生産牧場の方に対することは具体的にはないが、先ほど浜近委員からも御意見があったYouTubeについて、2番煎じでは駄目ということは我々も思っており、特に2歳に特化した番組企画、屋内調教用販路映像も含めてだが、実際に番組に出る人もいわゆるタレントだけでなく、生産牧場の方にお越しいただいたりとか、もしくは競馬関係の方、騎手、調教師といった方にも出演してもらおうなど、現場の皆様のわからないような声が届くような情報発信をしていきたいということで、今練っているところ。
- ・ 特に2歳馬戦の能力検定の結果や解説、出演者していただくMCの方もあえて競馬に詳しくない人を選んで、一緒に思った疑問を出演者にぶつけて、それで話を引き出していくことで、競馬をあまり詳しくない方でも情報を仕入れることができるような番組にしたいと考えている。さらに委員の御意見も参考にしながらやっていきたい。

(山下委員)

- ・ 細かい話になるが、今のホッカイドウ競馬のホームページの中でも、重賞参考VTRとか新馬戦ダイジェストとか、ホームページの中でひっそりと掲載されている。見ることができる状況にはあるがひっそりしているので、こちらも YouTube で流していただきたい。
- ・ 能検を YouTube ライブでという話も出ていたが、サーバーについて、去年、能検後にアクセスが集中していたことがあったので、整備に期待しながら、YouTube により負荷を分散して欲しい。

(西山委員)

- ・ 人の充実のところで、新しい手当の創設というのがいくつもあるが、先ほどの説明の中で、インパクトのある上げ方という話であったが、ということは、類似の制度は他の競馬場にはないものだったり、金額的にはかなり得なものだと捉えていいのか。
- ・ 実際、創設するに当たっては色々な方に意見を聞いて事前のリサーチなどもあると思うが、どのような反応が得られていて、この春の出走馬の確保に向けて既に何らかの形でいい効果を産みそうだといった手応えは得ているのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 馬に関しては各種手当、出走手当の引き上げということで、今まで7万5千円や9万円だったところを、一桁違う10万円にアップし、1開催当たり2回出走させることで、1か月の馬の預託料が賄える水準にした。そういった部分でも馬主さんがホッカイドウ競馬に馬を入れやすくした。
- ・ 馬の現在の入きゅうについて、去年は4歳以上の古馬が少なかったが、こういった手当を打ち出したことで、去年に比べて今の時点で20~30頭増えている。また、競馬では、3歳馬が商品的に価値があるが、その3歳馬も増えており、一定程度手当や賞金の引き上げが馬主にも浸透し、ホッカイドウ競馬に馬を入れていただいているのではないかという手応えを今の段階では感じている。

(平本委員長)

- ・ 西山さんがお感じになるのは、1万円くらい上げてインパクトがあるのかということかと思うが、今御説明いただいたように、2回出走すると預託料が出るというところにこの金額が設定されていることが、馬主にとっては一定の魅力になっているということ。

(西山委員)

- ・ 新人騎手に対する手当は他の地方競馬ではないのか。

(事務局 木村参事)

- ・ 他場でもあるが、有名どころの南関東でも50万円が上限。そこと同じ事をやっても

北海道に来てくれないと考え、今回思い切って 100 万円という形で打ち出した。馬具を揃えるにも相当のお金がかかるので、こういう支援をすることによって来やすくなるのではないかと考えている。

(西村副委員長)

- ・ 今の話の続きになるが、北海道の場合、これは仕方のない部分であるが賞金が安い。浜近さんのようにマスコミの方は分かっていると思うが、今、中央競馬では預託料が知らないうちに1か月70~80万円になっている。少し前まで60万円だったのに。出走手当は30万円台だったのが、今は47万円くらいになっている。ただ、どういうわけか中央競馬の場合は、それだけの金額を払っても、例えば関東では去年の平均出走回数が3.4回。1年間に3.4回しか走らないのに預託料は今の金額。まして育成場に出すと、以前は1日当たり13000円から15000円で、1ヶ月50万円に近づいている。何も走らないのに50万円かかるとなると、昨日も電話で馬主さんと話したが、そういう方たちは楽しみがないということで地方に向かう。高知が特にそうで、2回走ると預託料が払える。賞金も少し上がる。笠松も最近不祥事があったが笠松にも入らなくなった。どんどん地方へ流れている。
- ・ 中央競馬の未勝利の馬は、次の馬に替えるためにオークションに出す。オークションで買う人は馬を地方に持って行く。そうすると馬が入るところはというと、今年状況は皮算用だが、暑さの問題もあるので北海道に来てくればと考えている。北海道もこれだけ出走手当も充実し始めたので、今年は良い方向に向かうのではないか。
- ・ 去年の入場者数はコロナが少し緩和されて増えたとはいえ、競馬場に行っても自己防衛で自分の身ことを考えたり、波があってまだ中途半端であった。競馬場に入るのもそれに応じて規制していた。イベントや名物のジンギスカンもやっと再開し始めたが、客がまだそういう体制になっていなかった。今年は当初からオープンになるということであれば、色々な面でホッカイドウ競馬に期待できる材料が多いのではないか。

(山下委員)

- ・ 生産現場の方からそういった明るい話が出るのはよいこと。正直な話をすると、昨年段階ではYouTubeの配信もうそうだし手当面もそうだが、十分な施策ない中での最高額の更新だったと思う。今年から浦和や水沢など他主催者が薄暮開催を始めるため、ナイターの強みが薄れると思うが、そういった意味では伸び代を上手く活用して運営していただきたい。

**【まとめ】**

(平本委員長)

- ・ 今日、持続可能な運営ができるように人材確保の話であったり、軽種馬産地である北海道の特徴を生かした様々な施策、情報発信の必要性などについて、非常に多面的な御指摘・御意見を頂戴した。今日の運営委員会の議論が次年度の施策に上手く反映され

ることを期待しているので、どうか競馬事業室としては、今日の議論が参考となるようにしていただきたい。

(赤池競馬事業室長)

- ・ 長時間にわたり忌憚のない御意見をいただき感謝。議題にもあったとおり、第3期プランや課題解決に向けた各取組、来年度に向けた予算措置など色々考えているところ。
- ・ 一方で、コロナで伸びたところがあるが、陰りも見えてきたということで、西村副委員長の御意見のようにいい方向に向かうとよいが、プランを達成するためには、ここ1、2年が一番大切な時期と考えており、そのため予算についても思い切ったことをしてきたつもり。
- ・ 来月19日からホッカイドウ競馬が始まる。緊張感を持って一生懸命頑張りたい。
- ・ 今日、いただいた御意見を踏まえ、また競馬関係者と連携して、競馬事業を安定的なものにしていくため、最大限取り組んで参りたい。
- ・ 本日は貴重な御意見に感謝。

(以上)